

8月3日とうとう東大研修の日がやってきました。僕が東大に行くのは今回が初めてだったので、なんだかとてもたのしみでしたが、引率する先生方も少なく、若林先生のおっしゃった通り、本当に大人の行動が求められるなど実感して東京へと出発しました。

まず、1日目にはディレクトフォースと企業訪問がありました。ディレクトフォースの建物は予想以上に大きくてびっくりしましたが、財団の方々が、これだけの大人数の二高生をうけいれてくださったので、本当にありがたく、うれしかったです。また、エレベーターの乗り降りもスムーズにできたと思うのでよかったです。また、グループでおはなしを聞くときには、班員たちから、積極的に質問が飛び交いました。まず、信氏さんは、経理のお仕事について教えてくださいました。特に信氏さんの場合は、学生のころからよくボランティアをしていたそうで、それがきっかけで笹川平和財団にはいろいろとおもったそうです。ほかにも、信氏さんは、学生時代は部活などの自分のやりたいことを精一杯やったほうがいいと、ご自分の過去をふりかえりながらアドバイスしてくださいました。また、吉田さんは、ヨーロッパなどの海外の銀行で働いていたことで、日本を客観的に見られるようになったと話してくださいました。それを吉田さんは複眼の思考と表現されていて、自分が今いる状況とは別の角度から物事を見てほしいと言っていました。また、それだけでなく、自分の目の前のことばかりを気にして悲観せずに、もっと長い目で物事を見てほしい、君たちのこれからは希望でいっぱいだよと背中を押してくださいました。それを聞いて、僕もなんだか少し将来への不安が減ったように感じました。ほかにも、流通関係の仕事をなさっていた金子さんは、商品を届けるうえで本当に大切なのは流通で、作ったものをお客様に届けて初めて商業が成り立つのだと強くおっしゃっていました。そして、日本文化を直に感じてみたいと思う外国人が多い中、その外国人にどうすれば日本の良さが伝わるのか、どうすれば外国人のニーズにこたえることができるかを君たちがよく考えて、これからの日本をもっとアピールしてほしいとおっしゃっていました。そのためには、自分たちが住むこの日本という国をもっと愛して、よく知ってほしいと教えてくださいました。金子さんの話を聞いてみて、僕たちはこの日本で縮こまるのではなく、もっと外にアピールしていくべきなんだなど実感しました。

今回、ディレクトフォースに訪問してみなさんの意見や考え方を聞いてみて、どの方も話のスケールがとても大きいなど感じました。それは、やはり海外で働いてきた経験がもとになっていて、自分の視野を広げる一つ的手段として海外へ飛び出してみることも大切なのだなど思いました。そして、1日目の午後は企業訪問として、東京医科歯科大学のほうへ訪ねさせていただきました。初めについたときは、とても敷地が広くてびっくりしました。中に入ってみるときれいで、あらかじめアポイントメントをとっておいた森尾教授の秘書さんが中を案内してくださいました。まず、控え室に荷物を置いてから、森尾教授のいらっしゃる部屋へと案内していただきました。実際に森尾教授にお会いしてみると、とても優しい方で、どんな質問にも丁寧に答えてくださり、最後には写真も撮ってくださいました。まず、森尾教授が医師を目指したきっかけは、医師は他の職業に比べて生死に関わる機会が多いからだそうで、患者さんを苦しみから救いたいという思いで医師になったそうです。僕自身も、森尾教授と同じように医師は生死に大きく関わる仕事だからこそ選んだというのが大きいので、少し親近感がわきました。また、森尾教授の行っているがん研究について聞いてみると、まず、がんというのは遺伝子変異がいくつか積み重なってできるもので、それゆえに、がんの原因がこれだと特定するのは難しく、また、がん細胞をたくさん複製している幹細胞を見つけるのがとても大変で、今もその幹細胞にどんな特徴があるのか調査中なのだとおっしゃっていました。もしその見つけ方がわかればこれからの医療に大きく貢献できるそうで、森尾教授も

常に新しい発見を求めて開発を行っているそうです。そこで、どうして森尾教授は小児科の医師にもかかわらず、がん研究をしているのか聞いてみると、この研究は、もともとは子供たちの難病治療に役立てるために始めたもので、やはりそのルーツは子供にあったそうです。ほかにも、森尾教授は最近の医療問題として、医療費が高くなってきていることや特に地方での医師不足が顕在化してきていることを説明してくださいました。僕は将来は東北で地元の人のために医療をしたいなと思っているので、そこで必要とされる医師になりたいなと教授の話聞いて思いました。

そして最後に、森尾教授は、医師というのは、患者さんを治したことで自己満足せず、患者さんとしっかりコミュニケーションをとって、相手の様子を観察するのが大切なのだとおっしゃられており、僕もそんな医師になれるように一生懸命努力していきたいと強く思いました。教授のお話しが終わったあとは、秘書さんが研究室を見せてくださり、徹底した無菌室の設備と着衣管理に驚きました。最後まで学生の僕たちに多くのものをみせてくださった秘書さんと、まだまだ医師の卵である僕たちの疑問に快く答えてくださった森尾教授には本当に感謝しています。

そして、夜には仙台二高の先輩方との懇談会があり、それぞれの先輩方がいろいろとアドバイスをしてくださいました。どの先輩もすごい方ばかりで、びっくりしましたが、僕たちのニーズに合わせた内容で話してくださいました。受験勉強に関しては、繰り返し同じことをやることでさらに理解度が深まることや、なんの大学のどんな学部で勉強をしていきたいかを見据えることの大切さについて教えていただきました。何人かの先輩はパソコンを使って説明してくださったので、とてもわかりやすかったです。また、東大での生活に関しては、進学振り分けがあるので、それが本当に重要だということ、そして、東大へ行って満足している人が多いため、東大に行くことをゴールにしてしまわないことを教えてくださいました。それを聞いて、あくまで大学は手段であって、目的ではないのだということ意識して勉強していく必要があるなと強く感じました。僕たちのテーブルに来なかった先輩からも最後にメッセージをいただき、僕にとってとても収穫の多い懇談会になったと思います。今回、こうして後輩のために集まってくださった先輩方には心から感謝しています。そしていつか、僕も何らかの形で二高の後輩に貢献できたらなとおもいます。こうして1日目は充実した内容で終えることができました。

8月4日、とうとうメインの東大研修がやってきました。初めて見た東大の大きさと雰囲気圧倒されながらも赤門をくぐりました。僕は午前中のリハビリテーション講義に参加したのですが、周りがみんな積極的に質問をしていて、またそのレベルも高かったので驚きました。難関大学を目指しているであろう人たちの意欲が垣間見えて、とてもいい刺激になったと思います。講義のあとは、キャンパスを見て回ったのですが、東大生の活動内容を展示作品や新聞を通して知ることができたので、大学選びの良い参考になったと思います。

最後に、今回東大研修をしたことは、自分の将来を考えるうえで、本当に絶好の機会になったと思います。それだけでなく、班員やほかの仲間たちとこうしてプランを立てて研修をしたことは二高での大切な思い出の1つになったと今強く実感しています。こうした仲間との思い出づくりをすることも、自分の将来のための大切な経験となるのだなとこの研修を通して学ぶことができました。

そして、今回の計画を実行するうえで、関わってくださったすべての方々に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。